

・環境省、官民連携し災害廃棄物対策

環境省は16日、東京都内で「災害廃棄物処理支援ネットワーク(D.Waste-Net)発足記念シンポジウム」とそれに先立って同ネットワーク発足式を開催した。東日本大震災の教訓を踏まえ、平時から大規模災害による廃棄物対策に準備するためセメント協会や日本建設業連合会、全国解体工事業団体連合会など17団体と京都大学環境安全保健機構附属環境科学センター長の酒井伸一教授で同ネットワークを発足。「最新の科学的・技術的知見によって自治体などの災害廃棄物処理対策も支援する」(望月義夫環境大臣の発足式開会あいさつ)考え。台風18号による大雨被害で同ネットワークを活用した支援を行うことも始まっている。

・8月セメント国内販売、3%減の321万ト

8月のセメント国内販売は盆休み明けからの天候不順の影響もあって前年同月比3.2%減の320万8千トにとどまった。地区別は官公需・民需ともに堅調な沖縄が二ケタ増となり、東北と北陸も増加した。九州は二ケタ減となり、関東一区も千葉以外は低迷しており5%近く減少している。今年4月からの国内販売累計は前年同期比4.8%減の1739万6千トで、輸入量が明らかとなっている7月までの国内需要は5.7%減の1430万1千トと、昨年度下期からの停滞が解消されていない。9月も台風や大雨で15日現在では1日当たり13.0%減となっている。

・湘南生コン協組、来年4月に価格スライド表改訂

湘南生コンクリート協同組合(副島修理事長)は、来年4月からの適用を目指して生コンクリート価格スライド表の改訂に向け大詰め作業に入っている。併せて、今後見込まれるリニア中央新幹線等の長期物件を見据えた契約形態の見直しについても検討を進めている。「実施するからには挫折するわけにはいかない。需要家や代行販売店と密接に意見交換を図りながら、十分な納得を得られる形で実施に移したい」(副島理事長)。工場集約化規程の制定に向けても協議を進めている。

2015.9.14号

・八戸セメントで1DAY PAVE

セメント協会と全生工組連、全生工組連東北地区本部、青森県生コンクリート工業組合、八戸セメント、住友大阪セメントは3日、八戸セメントの構内で早期交通開放型コンクリート舗装「1DAY PAVE」の施工見学会を開いた。東北で初の公開施工となり、国土交通省東北地方整備局や青森県、八戸市、NEXCO、道路建設会社、セメントメーカーおよび地元の生コン、建設業の関係者など約110人が参加し、関心の高さをうかがわせた。また、今回は地産地消の観点から細骨材に初めて地元で発生するフェロニッケルスラグを使用し、35%代替させた。

・PCa製品に高品質FA

高品質フライアッシュ「CfFA」をプレキャストコンクリートに利用するため、東北の製品会社と連携を図りながら技術データの蓄積、さらにはビジネスモデル構築まで含めて検討する「CfFAのPC製品への利用研究会」の設立総会が10月6日に東北大学で開かれることになった。

・JCI、既設構造物維持管理で提言

日本コンクリート工学会(JCI、三橋博三会長)の「既設コンクリート構造物の維持管理と補修・補強技術に関する特別委員会」(委員長・宮川豊章京都大学特任教授)は8日、東京都文京区の東京大学武田ホールで2年間の活動成果の報告会を開催し、コンクリート構造物の維持管理に関してJCIやコンクリート技術者が果たしていくべき役割などを取りまとめた21の提言をJCI提言として公開した。土木・建築分野のあらゆるコンクリート構造物について維持管理や補修・補強のあり方、方向性が示されるのはわが国初という。報告会には約180人が参加。10月15日には大阪市西区の建設交流館グリーンホールでも同報告会が開催される。

2015.9.7号

・堅調続くセメント輸出

セメント国内需要が停滞する中、アジア、豪州向けを中心に輸出は堅調が続いている。一方で中国の景気動向が不透明感を強めており、それが東南アジアにも影を落としている。中国発の世界的な株式市場の混乱を受けて為替相場も混乱しており、ドル高基調で東南アジアを中心とした各国通貨安が輸出市場にも少なからず影響している模様だ。フレートは安定しているが、今後の台風の発生状況によっては輸送に支障が出る可能性もある。来年度以降は、さらに中国の景気動向が懸念材料で、国内需要もにらみながらの輸出計画立案にセメント各社の担当者は苦慮している。

・名古屋の生コン、製販一体で市況改善

名古屋地区生コン卸商協同組合は、名古屋生コンクリート協同組合と連携し、製・販一体となり名古屋の市況改善を図るとともに生コンの商流改革を検討する。名古屋の市況は3年前に比べ、大幅に改善して1万円台に到達。生コン協組は来年4月に2年ぶりの値上げを予定しており卸協組は生コン協組と連携し、新価格についてゼネコンからの理解を得るため粘り強い交渉を行う方針だ。

・ケイコンのPCaL型剛性防護柵がNETIS登録

ケイコンが開発した「プレキャストL型剛性防護柵」がこのほど、国土交通省の新技术活用システム「NETIS」に登録された。剛性防護柵基礎と剛性防護柵をプレキャスト(PCa)化したことにより、工期の大幅な短縮を実現している。NETIS登録を機に積極的に営業展開を進めていく。